

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病害虫発生予察情報について

平成19年度農作物病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

平成19年度農作物病害虫発生予報第10号

平成19年11月29日
徳島県

I. 野菜

トマト・ミニトマト

黄化葉巻病

1) 予報内容

発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 11月の時点において、徳島市・鳴門市・阿南市・小松島市・阿波市・板野町・海陽町の計26圃場での発生を確認した(前年同時期における発生確認数は7圃場)。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病が疑われる株を見つけたときは、農業支援センターまたは高度技術支援センターに連絡する。
- (2) 発生を確認した圃場において、発病が疑われる株を見つけたときは速やかに当該株を除去し、土中に埋めるかビニール袋に密封して枯死させる。
- (3) 本病を媒介するタバココナジラミの発生を認めたら、早急に防除を行う。
- (4) 0.4mm目以下の防虫ネットで開口部を被覆し、昇温抑制のため循環扇を設置するとともに、黄色粘着トラップを設置してタバココナジラミの早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- (5) タバココナジラミはマメ科、キク科、ナス科、ウリ科など多くの植物に寄生するので、圃場内及び周辺の雑草を防除、あるいは除去する。
- (6) 栽培終了後、ハウスを蒸し込んでタバココナジラミの分散を回避する。
- (7) 地域ごとの作型統一と不作付け期間(1～2ヶ月)の設定により、タバココナジラミのトマト黄化葉巻病ウイルス保毒率を低下させる。

秋冬ダイコン

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並～やや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率は42.9%、25株当たり寄生虫の発生程度指数は0.4で、平年(19.6%、1.1)より発生面積率が高かった。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ブロッコリー・カリフラワー

黒腐病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率は30.8%、発病度は1.1で、平年(38.9%、3.4)並～やや少なめの発生であった。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後ではできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。
- (2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実に行なう。
- (3) 被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率は69.2%、寄生株率は8.9%で、平年(43.7%、7.8%)よりやや多めの発生であった。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

コナガ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率は30.8%、10株当たり幼虫及び蛹数は0.2頭で、ほぼ平年(24.1%、0.5頭)並の発生であった。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) コナガは葉裏に生息しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は 8.3%、発病度は 0.1で、ほぼ平年(7.5%、0.2)並の発生であった。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 品種は、本病レース 1～7に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと多発しやすく、発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (4) 薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が39.9%、50株当たり寄生程度指数が1.4)。
- (2) 11月23日発表の1ヶ月予報では、天候は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は28.6%、発病葉率は2.4%で、平年(12.2%、1.2%)よりやや多めの発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

- (3) 古葉を早めに除去し、薬剤防除にあたっては、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (4) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。
- (5) 展着剤は規定範囲内で多めに加用する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は28.6%、寄生株率は2.3%で、平年(29.8%、5.4%)並～やや少なめの発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年より多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は57.1%、寄生葉率は4.8%で、平年(18.2%、2.6%)より多めの発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. その他

1. 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報、発生状況、防除法等をお知らせしています。